

Neurophysiology and Muscle Mechanisms"(M. Shahani, ed.), pp. 317-332, Elsevier Scientific Publishing Company.

- 4) Toyama, K., and K. Matsunami (1976) : Convergence of specific visual and commissural impulses upon inhibitory interneurons in cat's visual cortex. *Neuroscience*, 1, 107-112.

学会発表

- 1) Relation between activity in red nucleus neurons and force in a tracking task in the cat.

Ghez, C., and K. Kubota,
Sixth Annual Meeting of the Society for Neuroscience.
Neuroscience Abstracts. Vol. II, Part 1. P. 542. (1976).

- 2) Single unit activity in the dorsomedial parts of prefrontal and premotor regions in the visually conditioned motor task in monkeys.

Sakai, M.
Sixth Annual Meeting of the Society for Neuroscience.
Neuroscience Abstracts. Vol. II, Part 1. p. 126. (1976).

- 3) Inferotemporal unit activity and a color memory task.

Mikami, A., K. Kubota, and M. Tonoike,
第53回日本生理学会大会
J. Physiol. Soc. Japan. 38, 115-116, (1976).

- 4) Unit activity in area 6 and the isometric voluntary contraction in rhesus monkeys.

Sakai, M.
第53回日本生理学会大会
J. Physiol. Soc. Japan. 38, 108, (1976).

- 5) 「脳と心」の問題への神経生理学的アプローチ

久保田 競
日本心理学会第40回大会発表論文集 P. 538
(1976).

- 6) サルの左右の上肢の随意運動と皮質運動野の細胞活動について

松波謙一, 浜田生馬
第6回日本脳波筋電図学会学術大会抄録集
(1976)

- 7) 精密なコントロールを要する随意運動と前運動野ニューロンの活動

浜田生馬, 久保田競

第23回生理学中部談話会 (1976)
日本生理学雑誌, 39巻 P16

心理研究部門

室伏靖子・浅野俊夫
小嶋祥三・松沢哲郎

研究概要

- 1) 大脳半球の機能の非対称性について

室伏靖子・南雲純治¹⁾

左右大脳半球間の機能分化は、ヒトのみにみられる特性の一つと考えられてきた。しかし最近の資料は、特定の条件下の行動において、アカゲザルにも同様の事実が見出されることを示唆している。切断脳のアカゲザルを用いて、次の二つの側面から両半球の行動統制に非対称性が認められるか否かが検討された。1)斜線の方角弁別とカテゴリーゼーション、2)条件性維持弁別で、左右半球が競合する手がかりを与えられた場面における反応決定。

- 2) 行動の機能的等価性に関する実験的研究

室伏靖子・小嶋祥三・南雲純治

ニホンザルの餌に対する心理的距離の尺度を構成するために、餌までの待ち時間を変数とする種々のスケジュールの2種が同時に示された場合に、サルがどちらをより好むかが測定された。結果は、従来のハトやネズミの資料に比較して、サルの場合はより長い単位時間に対して敏感であること、個体のもつ反応速度やパターンに大きく影響されることを示している。

- 3) ニホンザルの社会的行動と個体間関係

A. タルタビーニ²⁾・室伏靖子

1. ニホンザルのワカオスの2匹および3匹の組み合わせによる観察結果の分析は、相互のグルーミングやマウンティング行動が、攻撃的行動にあらわれる優位度の順位と、特定の個体間の友好関係によって決定されること、第3の動物の存在はより優位な個体の攻撃性を増すことを明らかにした。

2. ケージ内および糞面群における子ザル(3~26月)の発達に伴う社会的行動の変容が、情報理論にもとづく行動連鎖の分析法によって解析された。

- 4) ハトの選択行動における報酬遅延の効果について³⁾

浅野俊夫

- 5) 霊長類の短期記憶に関する行動分析

小嶋祥三

1) 文部技官

2) 研修員(イタリアからの国費留学生)

3) カリフォルニア大学サンディエゴ校にて研究

遅延反応を4つのキーを用いた連鎖スケジュールで行ない、アカゲザルの空間位置に関する短期記憶において、キー押しのオリエンテーション、「リハーサル」、「コーディング」の持つ役割を検討した。

6) ラットの拡張性抑圧に関する研究

松沢哲郎

拡張性抑圧をもちいて、ラットにおける摂水行動、視覚的誘発電位についての基礎的研究、および回避条件づけによる視覚的弁別課題の脳半球間転移について検討をおこなった。

7) ニホンザルの視覚に関する研究

松沢哲郎

ニホンザルの視空間知覚、とくに方向の視覚的弁別と視野の異方性について、学習曲線、反応時間の観点からの分析をおこなっている。

総 説

- 1) 室伏靖子 (1976): サルの反応時間にみられる 大脳半球間の非対称性について。“感覚と行動の神経機構”(久保田・佐藤共編), pp. 189—210, 産業図書。
- 2) 浅野俊夫 (1975): ニホンザルの実験的行動分析における理論的展開。心理学評論, 18, 181—197。
- 3) 浅野俊夫 (1976): 強化のスケジュール。“学習心理学”(能見編), pp. 89—118, 大日本図書, 東京。
- 4) 小嶋祥三 (1976): 実験的行動分析と脳機能の研究。心理学評論, 18, 198—206。

学 会 発 表

- 1) Environmental determinants of primate behaviour.
Asano, T. & E. Fantino
6th. Congress of the IPS (1976)
- 2) Concurrent chain スケジュールによる強化スケジュールの選択
小嶋祥三・室伏靖子
日本心理学会第40回大会 (1976)
- 3) いわゆる Spreading Depression をもちいたラットの行動
松沢哲郎
日本動物心理学会第36回大会 (1976)

社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄
東 滋・鈴木 晃
森 梅代¹⁾・足沢貞成²⁾

研 究 概 要

1) ニホンザルの分布とその変動に関する研究

1) 教務職員 2) 教務補佐員

川村俊蔵・東 滋
鈴木 晃・足沢貞成

京都、兵庫、滋賀、和歌山、三重、岐阜、宮崎のニホンザルの分布の現状について、一次資料の集積をおこなっている。

岐阜、宮崎両県と東北地方の南部などの天然林地帯について、ニホンザルの分布像の形成過程—多くは地域個体群の衰退史である—をたどった。

2) ニホンザルの社会生態学、とくに自然群の環境利用とグルーピング・社会構造

東 滋・足沢貞成

ニホンザルの群れの連続した分布をゆるす環境で、遊動する群れがしめす生活と社会現象をとらえなおすために屋久島と下北半島西部の地域個体群について継続的な調査を行なっている。

3) ニホンザルの個体群の生活の維持に対する森林施業その他の human impact の影響の生態学的研究

東 滋

ニホンザル個体群の地域構造や生活のたてかたに与える人為営力の作用を生態学の文脈においてとらえる。もっぱら“自然”の側の反応を異なる形式あるいは程度で人為の加わった地域間の比較と同一地域の時系列的変化の追跡により把握しようとする。下北半島の北西部・南西部の2つの地域個体群についての個体群変動の追跡と岐阜県下の天然林地帯と“森林開発”のすすんだ地域の予備的調査を行なった。

また平行して、おなじ環境変化がニホンザル以外の森林哺乳動物に与える影響についても調査をすすめている。

4) ニホンザルの地域個体群のあり方

鈴木 晃

上信越地方を中心として、ニホンザルの地域個体群の土地利用、個体群動態、遊動におけるスペーシングの問題、オスの群れの離脱等に関する社会関係等の調査およびとりまとめを行なってきた。

5) ニホンザルの性行動についての研究を行なった。

河合雅雄

6) ニホンザルコドモの社会関係の発達

森 梅代

あそび仲間関係、社会関係の発達における性差および、母子関係に関する研究を行なっている。

7) 東アフリカにおける各種霊長類の社会学・生態学的研究のとりまとめ

鈴木 晃

8) メンタウエイ諸島における4種のサルの社会学的研究

川村俊蔵・渡辺邦夫